

令和7年度 農山漁村振興交付金(地域資源活用価値創出対策)のうち地域資源活用価値創出推進事業(農泊推進型)及び地域資源活用価値創出整備事業(農泊推進型)
事業実施主体 評価一覧

1. 事業評価の実施

令和7年度に実施された農山漁村振興交付金(地域資源活用価値創出対策)のうち地域資源活用価値創出推進事業(農泊推進型)及び地域資源活用価値創出整備事業(農泊推進型)」の事業について、農山漁村振興交付金(地域資源活用価値創出対策)実施要領(令和4年4月1日付け3農振第2921号農林水産省農村振興局長通知)別記4の第10の2の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 事業評価結果の総括

令和7年度に交付金事業を実施した10地区内の7地区について、取組の実施状況、成果等を総合的に評価した。
その結果、優良と認められる地区が1地区、良好と認められる地区が2地区、総合的に低調と認められる地区が4地区との評価結果となった。
また、今年度の評価対象ではないが昨年度に重点指導の対象となっていた3地区について、重点指導の結果を評価した。その結果、来年度も引き続き重点的な指導、助言を行う地区は1地区であった。

3. 各地区の評価結果

10地区(うち3地区は、今年度評価対象ではないが昨年度重点指導となっていた地区)

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階								評価	評価コメント
				R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8		
北陸	富山県	富山市	山田地域都市農村交流協議会	● ▼ ▲	●	● ■ ▼ ▲	▼ ▲	▼ ▲	▼ ▲			B	地域の温泉旅館「ふれあいの里ささみね」とコテージ「木MAMA」はスキー客の減少にコロナ禍が追い打ちをかけ閉館となり、宿泊施設がない状況となっていたが、新たに古民家を改修した宿泊施設「雪つばき」などで宿泊者の受け入れを始め、民泊申請もしたことで延べ宿泊者数は増加している。また、新たに協議会メンバーに加わった地域おこし協力隊により新しい取組が行われ、売上高及び宿泊数もおおむね目標を達成していることから、良好と評価する。
北陸	石川県	七尾市	(ソフト事業) 矢田町スローツーリズム推進協議会 (ハード事業) 株式会社じろざみ			● ★	● ■ ▼ ▲	◆ ▼ ▲	▼ ▲		△	C	能登半島地震の影響で施設の一部が破損したため、活動拠点として施設を提供した災害ボランティアとともに、令和6年度に施設の復旧作業を行った。令和7年5月より営業を再開したものの、能登半島地震の影響で客足が完全に戻っておらず、更には、令和6年度の休業中にロコミや認知度の蓄積がなくなったことで、目標は未達となったことから、低調と評価する。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)
ハード対策 ☆…交付対象年度(計画) ★…交付対象年度(実施済) ◇…目標年度(計画) ◆…目標年度(実施済)
重点指導 ▼…重点指導(通知) △…重点指導(結果報告予定) ▲…重点指導(結果報告)

(注2) 「評価」の区分: A…優良 B…良好 C…低調 評価対象外…評価対象外

農政局等	都道府県	市 町 村	事業実施主体名	事業実施段階								評価	評価コメント
				R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8		
北陸	石川県	七尾市	崎山半島渚泊推進協議会			● ★	● ■ ▼ ▲	◆ ▼ ▲	▼ ▲			A	インバウンド向けに提供する体験プログラム、食事等については、モニターツアー等によって点検、磨き上げを行い、概ね受け入れ体制が構築されている。特に和船の乗船、定置網体験等特徴を持った取組を行っていたところであるが、能登半島地震によって当地域の住居やインフラ、体験施設、宿泊施設にも大きな被害を受けている。既存の宿泊施設の復興が見込めないことから、新たな宿泊施設を構成員に加え、小規模での受入をメインにしながら安定した事業継続を今後も図っていくとしており、売上高及び宿泊者数とも目標を達成したため、優良と評価する。
北陸	新潟県	十日町市	(ソフト事業) Mizusawa Rice Terrace Conference (水沢棚田協議会) (ハード事業) HOME HOME NIIGATA					● ★	● ■ ★ ▼ ▲	◆ △		C	令和6年度は、施設整備事業における目標の売上高及びのべ宿泊者数は、大雪などの影響により宿泊施設の開業が予定より3カ月遅れたこと、それにより、PRやOTAへの掲載が後ろ倒しになったことから目標を下回り、評価は低調となった。令和7年度は、十日町への旅行者が多いシーズンにオープンが遅れたことで出遅れたことや、ロコミが十分に蓄積されていなかったことで、目標を達成できなかったことから、低調と評価する。
北陸	新潟県	新潟市	秋葉区まちづくり協議会						●	● ■		C	令和4年度～令和5年度に実施した農泊推進事業等で課題となっていた外国人客の集客、飲食店との連携、宿泊に結び付く体験プログラムを改善するため、秋葉区まつり大全集の実態調査・製作や弟子入りプログラムなどが計画通り実施された。目標の半数以上を達成しているものの、人材活用事業において研修内容の変更があり、「主要な取組」において半数以上実施されなかったことから、総合的評価は低調と評価する。ただし、目標の達成率が50%以上であることから、重点指導は行わない。
北陸	新潟県	佐渡市	佐渡農漁体験創発協議会						● ▼ ▲	● ■		B	農泊推進事業、人材活用事業ともに、計画していた取組を行っている。更に、取組み農家の拡大に向け、農家に声掛けや説明活動を行ったことは、評価できる。売上高及び延べ宿泊者数は、おおむね目標を達成していることから、良好と評価する。
北陸	新潟県	長岡市	寺泊広域まちづくり協議会						●	● ■		B	令和2年度～令和3年度に実施した農泊推進事業等で課題となっていた寺泊地域に関するインバウンド向けの情報発信については、外国人インフルエンサーの招致・SNS発信やサウナ専門メディアの活用により、ターゲット層の興味喚起・情報発信の基盤を構築した。計画した取組はおおむね予定どおり実施され、目標も達成していることから良好と評価する。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)
ハード対策 ☆…交付対象年度(計画) ★…交付対象年度(実施済) ◇…目標年度(計画) ◆…目標年度(実施済)
重点指導 ▼…重点指導(通知) △…重点指導(結果報告予定) ▲…重点指導(結果報告)

(注2) 「評価」の区分: A…優良 B…良好 C…低調 評価対象外…評価対象外

農政局等	都道府県	市 町 村	事 業 実 施 主 体 名	事業実施段階								評 価	評 価 コ メ ン ト
				R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8		
北陸	富山県	南砺市	城端地区活性化協議会						●	● ■		A	令和4年度～令和5年度に実施した農泊推進事業等で地域のインバウンド対応不足が浮き彫りになり、体制を整備するほか、町のシンボルだったものの伐採された城端別院善徳寺の樹齢800年を超える大杉を材木としてどのように活用するか街全体で検討した。ホームページ・パンフレットの多言語対応、大杉を活用したアクティビティの実施実験が計画通り、又はそれ以上に実施された。目標は半数以上で達成しており、主要な取組も確実に実行していることから優良と評価する。
北陸	富山県	射水市	(ソフト事業) アルベルゴディフーズ新湊を拓く協議会 (ハード事業) 一般社団法人アルベルゴディフーズ新湊を拓く会						● ★ ▼ ▲	● ■ ★ △	◇	C	農泊推進事業においては、漫画小冊子の作成や富山大学との連携、射水つつし塾の運営に一部携わるなどの取組を行ったものの、半数以上の取組を計画通りに実施できなかった。また、施設整備事業における売上高及びのべ宿泊者数の目標は、宿泊施設改修が令和8年3月末まで遅れたことから大きく下回っており、低調と評価する。
北陸	石川県	志賀町	(ソフト事業) くまの地域づくり協議会 (ハード事業) 一般社団法人のとくまの						● ★	● ■ ★	◇	C	地域の関係者間で対話を重ね、また、受け入れ体制を強化するため専門家からの指導を受けており、実施体制の強化に努めている。インバウンドを意識した体験の磨き上げにも努めているが、一部の取組が計画通りに実施できなかった。また、ハードの改修工事は震災の影響により工事業者がなかなか確保できず、資材の入荷遅延も重なり、工期が遅れ、令和8年4月30日の完成となったことから目標を下回っており、総合的評価は低調と評価する。ただし、目標年度が令和7年度となっている農泊推進事業については、目標の達成率が50%となっていることから、重点指導は行わない。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○・・交付対象年度(計画) ●・・交付対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)
ハード対策 ☆・・交付対象年度(計画) ★・・交付対象年度(実施済) ◇・・目標年度(計画) ◆・・目標年度(実施済)
重点指導 ▼・・重点指導(通知) △・・重点指導(結果報告予定) ▲・・重点指導(結果報告)

(注2) 「評価」の区分: A・・優良 B・・良好 C・・低調 評価対象外・・評価対象外

4. 第三者機関の意見聴取

農山漁村振興交付金(地域資源活用価値創出対策)実施要領(令和4年4月1日付け3農振第2921号農林水産省農村振興局長通知)別記4の第10の3の規定に基づき、第三者機関である「北陸農政局農山漁村振興交付金(都市農村交流等)評価委員会」を組織し、評価に当たり意見の聴取を行った。評価委員会の委員及び開催概要は以下のとおり。

【評価委員会 委員】

委員長：桑原 美香（福井県立大学経済学部教授）

委員：青山 浩子（新潟食料農業大学食料産業学部教授）、今村 智子（金沢星稜大学経済学部准教授）

【令和8年度評価委員会の開催概要】

1 日 時 :令和8年8月24日(月) 13:30～16:00

2 場 所 :金沢広坂合同庁舎 1階第3会議室(オンライン併用による開催)

3 議事概要

① 令和7年度評価対象地区の評価方法について

本年度の評価方法について、説明を行い了承を得た。

② 令和7年度評価対象地区の評価及び取組状況について

令和7年度に交付金事業を実施した13地区内の10地区について、取組概要、評価案に関して説明し質疑応答を行い了承を得た。

また、今年度の評価対象外ではあるが、昨年度に重点指導対象となっていた3地区の、重点指導結果に関して説明し、質疑応答を行い了承を得た。

4 主な意見

低調理由は主に、天候不順や外的要因(建築資材の高騰による工事の遅延、物価高騰による需要減)などではあったが、人材不足は否めないため、業務の平準化やデジタル機器の導入による負担軽減など「仕組みづくり」に立ち返ってはどうか。

先進地視察や体験メニューの開発等も重要ではあるが、既に地域ネットワークが確立しているのであれば、むしろ農泊事業の取組一つ一つの効率化などを業務改善に実績のあるコンサルタントやITベンダー等に依頼し、オーダーメイド型で作業フローを提案してもらうのも一考ではないか。いつ、誰が、何をするか、といった業務フローのたたき台を外部業者とともに作成すると、事業者自身の気づきがあるのではないか。

自然災害の影響を受けている事業主体が多く散見された。この影響で計画通りに事業を実施できない場合、何らかの配慮(事業内容の変更を認めるなど)一定の配慮が望ましい。